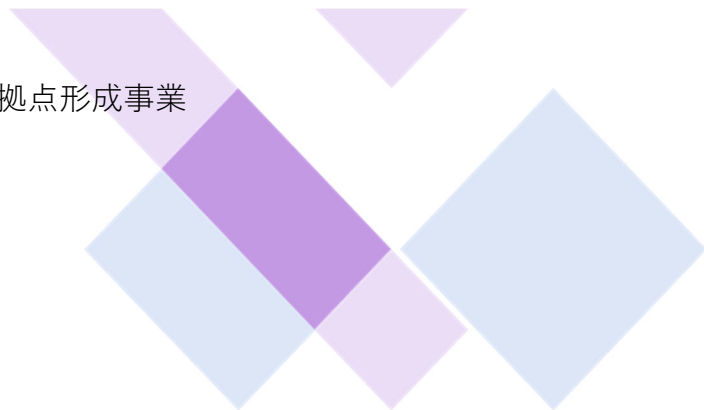


文部科学省 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
(社会的な要請に対応できる看護師の養成)



Project KPUM

重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト

2026年度 前期

成果報告書



京都府公立大学法人 京都府立医科大学
看護実践キャリア開発センター



目次

I. 事業概要	・ ・ ・ ・ ・ 1
II. 令和 8 年度前期実施報告	・ ・ ・ ・ ・ 7

I．事業概要

1. 事業実施の背景

近年、我が国においては、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に少子高齢化の進展による医療ニーズの多様化、地域医療の維持についての問題が顕在化した。看護師に求められる能力や看護を提供する場は多様化し、社会的な要請に対応できる看護師の養成は急務である。このような背景をもとに、本事業は令和6年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」に採択された。

京都府立医科大学は、1872年の設立以降、医療・医学を担う人材育成と高度先端医療を牽引する役割をもつ大学である。附属病院は、地域における高度急性期医療基幹病院としての役割に加え、2024年度には救命救急センターの新設、北部医療センターとの連携のもとドクターヘリ拠点病院としての整備が計画され、京都府内の救急・災害医療の充実に図ることが責務となっている。附属病院看護部では、三次救急医療機関としてクリティカルケア看護実践能力向上を目指した看護師教育プログラムの構築も行っている。また、2019年度には特定行為研修指定研修機関の指定を受け、外科術後病棟管理領域コース、術中麻酔管理領域コース、集中治療領域コース、救急領域コースを開講し、継続的に修了生を送り出している。

今回、文部科学省新規事業募集の通知を受け、救急医療提供体制の充実・強化を図っているさなかである本学は、①救命救急センターの新設、②クリティカルケア看護師養成プログラムの再構築、③特定行為研修における集中治療領域コースの新設、④京都府で唯一のPICUを擁する医療機関等、複数の条件が合致したため申請し、採択に至った。長年にわたり、京都府内のジェネラリストナース教育に携わってきた看護実践キャリア開発センターが、本事業の事務局として管理運営を担い、重症患者に対応できるジェネラリストナース養成を目指す。本事業により、京都府下で急性期医療に従事する看護師のレベルアップと施設間連携が期待でき、新興感染症の流行、大規模自然災害、超高齢化・人口急減による急性期医療ニーズの変化に対応することが可能となる。また、京都府で唯一PICUを擁する医療機関として、小児救急医療・看護の発展に大きく寄与することができる。

2. 全体構想

本事業は、京都府立医科大学、附属病院、看護実践キャリア開発センターが一体となり、高度なクリティカルケアの看護実践能力を有する看護師養成およびネットワーク構築を目指すプログラムである。

【目的】

- ①高度なクリティカルケア実践能力をもち、医療ひっ迫時に派遣要請に対応できる看護師を養成する
- ②自施設のクリティカルケアにおいて指導的役割を担い、看護の質向上に寄与する看護師を養成する
- ③プロジェクトを通じて京都府内におけるクリティカルケア領域の看護師間・組織間のネットワークを構築する
- ④認定看護師、専門看護師、特定行為看護師につながるよう受講生のキャリア形成を支援する

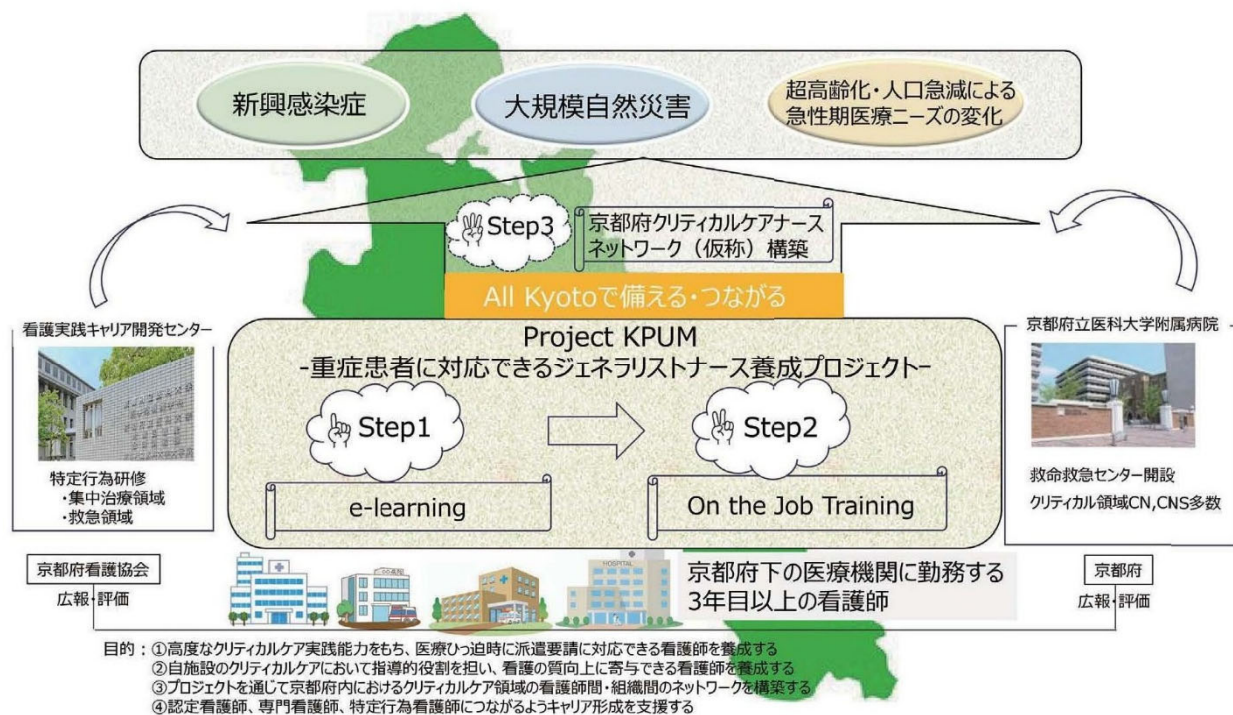
【対象】 京都府内の医療機関に勤務する臨床経験3年目以上の看護師

【内容】成人系と小児系のクリティカルケアを学ぶコースを設定する。

Step1：e-learning と講義・演習

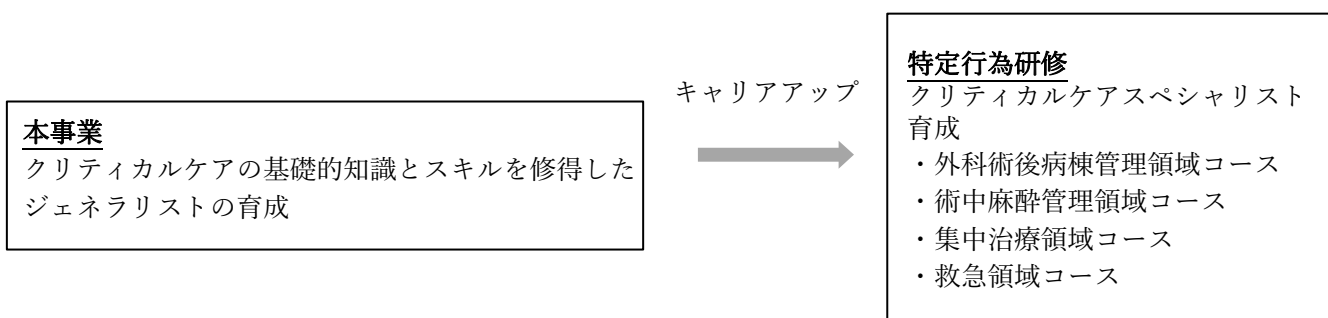
Step2：On the Job Training（以下 OJT）

Step3：研修修了後、京都府クリティカルケアナースネットワーク（Project KPUM Network；P-K net）の構築、情報交換や後進育成にあたる



3. 特定行為研修との位置付け

本事業は、地域のクリティカルケア支援体制の強化に貢献できるジェネラリスト看護師育成プログラムとして位置づける。また、当プログラムの受講を通して特定行為看護師等スペシャリストへのキャリアアップにつなげる。



4. 養成した人材の活躍に係る構想

1) 個人の実践能力向上と教育的役割

自施設の病棟で、患者の急変や重症化に自信をもって対応できるようになることを目指す。重症患者への対応と看護、救急入院時の初期対応と看護、急変時の二次救命処置（気管内挿管の介助や電氣的除細動の介助）ができ、後輩の指導にあたることができる。

2) 京都府クリティカルケアナースネットワーク（Project KPUM Network；P-K net）の構築

当プログラムでは、個人の知識・技術を向上させるのみならず、他施設での実習、施設間留学を経験し、自施設や自身の看護を客観的に内省すること、施設内・施設間での看護師間連携を強化することを目指す。特に、現代は小児集中治療領域に対応できる看護師の不足が課題であり、人的リソースの活用のため、施設を越えた繋がりへのニーズは高い。ネットワークでは定期的な勉強会や研修会、情報交換会を開き、顔の見える関係づくりを形成する。クリティカルケア看護師ネットワークは、大規模自然災害時や新興感染症流行時の緊急派遣要請に大きな効果を発揮することが期待できる。

3) 京都府立医科大学における看護体制の強化

本学では、クリティカルケア領域のスペシャリスト（認定看護師、専門看護師、特定行為看護師）が多数活動し、看護基礎教育における領域別臨地実習指導や、自施設の看護師教育（教育ラダーに則ったプログラムの実施・評価）を行っている。当プログラムにおいて、他施設で勤務するジェネラリスト看護師の教育に携わることで、本学の認定看護師、専門看護師、特定行為看護師の教育力（最新の知識を習得し、自身の実践を内省・言語化し、他者に伝え共有する力）向上を図る。スペシャリストの看護実践能力、教育力の強化は、本学附属病院看護部の教育ラダーに反映され、ジェネラリストのレベルアップに寄与できる。また本学附属病院では、特定行為看護師の修了後研修が終わり本格的な活動を始めるところである。特定行為研修修了者をクリティカル領域スペシャリストナースチームの一員として当プログラムに位置づけることで、院内での認知度を高め、組織横断的な活動を促進することができる。

5. 教育内容

研修期間：1クール6ヶ月（年間4月～9月・10月～3月の2クール設定）

教育内容とスケジュール

月/ 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6	4/30 申請×切		下旬 結果発表		受講生 公募開始	・開講式 ・e-learning	・OJT ・6か月の院内留学 ・附属病院Ns15名 ・期間中に技術演習3項目（二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）とドクターヘリ拠点地見学（1日）					・成果発表会 ・閉講式 ・次期受講生 決定
R7	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系2週間、救急系2週間 ・期間中に技術演習3項目 （二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）と ドクターヘリ拠点地見学（1日）		・成果発表会 ・閉講式 ・次期受講生 決定	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系2週間、救急系2週間 ・期間中に技術演習3項目 （二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中に手術室見学（1日）と ドクターヘリ拠点地見学（1日）				・成果発表会 ・閉講式 ・次期受講生 決定
R8	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系1週間、救急系1週間 ・期間中に技術演習3項目 （二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中にドクターヘリ拠点地見学（1日）		・成果発表会 ・閉講式 ・次期受講生 決定	・開講式 ・e-learning		・OJT ・JNAラダーⅡ以上のNs15名 ・京都府下第三次救急医療機関にてOJT ・ICU系1週間、救急系1週間 ・期間中に技術演習3項目 （二次救命処置、NPPV、MV） ・期間中にドクターヘリ拠点地見学（1日）				・成果発表会 ・閉講式

6. 運営体制

1) 事業実施体制

氏名	所属・職名
(事業責任者) 毛利 貴子	看護実践キャリア開発センターセンター長 京都府立医科大学医学部看護学科教授
宮田 千春	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科教授
濱崎 一美	看護実践キャリア開発センターセンター員 京都府立医科大学附属病院看護師長、集中ケア認定看護師
上妻 京子	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科助教
田中 真紀	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学附属病院看護部教育担当副部長
辻尾 有利子	京都府立医科大学附属病院看護師長、急性・重症患者看護専門看護師
吉岡 さおり	京都府立医科大学医学部看護学科学科長、教授
原田 清美	看護実践キャリア開発センター副センター長 京都府立医科大学医学部看護学科准教授
吉田 万里子	京都府立医科大学教育支援課課長
舩井 敬一朗	京都府立医科大学教育支援課課長補佐
武田 光喜	看護実践キャリア開発センター非常勤職員

2) 連携組織

・病院施設等

京都府内三次救急医療施設（京都大学医学部附属病院、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院、京都医療センター、市立福知山市民病院、洛和会音羽病院、宇治徳洲会病院、京都府立医科大学附属病院）

3) 評価体制

- ・学校教育法第 109 条第 1 項に定める評価を実施する。「Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価委員会」を組織し、当プログラムの内容や成果の評価、検証を行う。その結果は、本事業の報告書や看護実践キャリア開発センター報告書等により、広く公開する。
- ・「Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価委員会」は年 2 回開催し、事業の遂行や内容の妥当性、評価について検討し、プログラムの改善につなげる。
- ・「Project KPUM 重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト評価委員会」委員は、医学部看護学科長、附属病院看護部長、本学教員、本学以外に所属する学識経験者を指名する。

令和8年度評価委員会構成メンバー

大賀知津子（京都光華大学看護福祉リハビリテーション学部看護学科基礎看護学領域教授）
 中川雅子（元看護学科教授）
 大束貢生（佛教大学社会学部現代社会学科教授）
 吉岡さおり（医学部看護学科教授、学科長）
 光本かおり（附属病院副院長兼看護部長）
 倉ヶ市絵美佳（附属北部医療センター副院長兼看護部長）
 毛利貴子（看護実践キャリア開発センターセンター長、医学部看護学科教授）
 宮田千春（看護実践キャリア開発センター副センター長、医学部看護学科教授）
 原田清美（看護実践キャリア開発センター副センター長、医学部看護学科准教授）
 田中真紀（看護実践キャリア開発センター副センター長、附属病院看護部教育担当副部長）
 他実施体制メンバー

7. 年度別実施計画

令和6年度	① 7月	受講生募集開始
	② 9月	開講式、e-learning 開始
	③ 10月	附属病院にて OJT 開始 OJT 期間中に技術演習、施設見学（ドクターヘリ基地病院等）を実施 次年度受講生募集開始
	④ 3月	OJT 終了、評価委員会、発表会、修了式、報告書作成
令和7年度	① 4月	開講式、e-learning 開始
	② 5月	講義・技術演習、施設見学（ドクターヘリ基地病院等）を実施
	③ 7月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 実施 後期受講生募集開始
	④ 9月	成果発表会、修了式、報告書作成
	⑤ 10月	開講式、e-learning 開始 評価委員会開催
	⑥ 11月	講義・技術演習、施設見学（ドクターヘリ基地病院等）を実施
	⑦ 1月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 実施 次年度受講生募集開始
	⑧ 3月	成果発表会、閉講式、報告書作成、評価委員会開催
令和8年度	① 4月	開講式、e-learning 開始
	② 5月	講義・技術演習、施設見学（ドクターヘリ基地病院等）を実施
	③ 7月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 実施 後期受講生募集開始
	④ 9月	実習担当者連絡会議、成果発表会、閉講式、報告書作成
	⑤ 10月	開講式、e-learning 開始、評価委員会開催
	⑥ 11月	講義・技術演習、施設見学（ドクターヘリ基地病院等）を実施
	⑦ 1月	京都府内三次救急医療機関にて OJT 実施 次年度受講生募集開始
	⑧ 3月	成果発表会、閉講式、報告書作成 評価委員会開催

Ⅱ．令和 8 年度前期実施報告

1. プロジェクトの概要

令和8年度は、実践的な看護能力の向上を目的とした「実践コース（Aコース）」と、知識習得を中心とした「学習コース（Bコース）」の2コース体制とし、より受講者の学習ニーズに応える形で募集を行った。

本プログラムは、臨床経験3年目以上の看護師を対象とし、急性期・重症患者への看護実践能力の向上を図ることで、クリティカルケア領域における即戦力となる看護師の育成を目指している。

1) コースの概要

臨床経験3年目以上の看護師が個々のクリティカルケアの実践状況に応じて受講できる様に以下の2つのコースを展開した。

実践コース（Aコース）

eラーニングを用いた学習、対面での講義を受講する。

京都府内の三次救急医療施設において、計2週間の実習（OJT）を行う。

学習コース（Bコース）

eラーニングを用いた学習、対面での講義を受講する。

京都府内の三次救急医療施設において計2日間の見学実習を行う。

※両コースとも、ICLS(Immediate Cardiac Life Support)、ドクターヘリ基地病院見学実習への参加が可能である。

2) 教育目標

実践コース（Aコース）

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅡ：集中治療領域の標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する。

(2) 行動目標

- ① 集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズを自らとらえることができる。
- ② 患者・家族や状況（場）に応じた看護を実践し、評価できる。
- ③ 関係者の役割を理解した上で看護チーム内において情報交換ができる。
- ④ 患者・家族や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる。

学習コース（Bコース）

(1) 到達目標

集中治療に携わる看護師のクリニカルラダー（日本集中治療医学会,2019）

レベルⅠ：集中治療領域の基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。

(2) 行動目標

- ① 助言を得て集中治療にある患者・家族や状況（場）のニーズをとらえることができる。
- ② 患者の病態生理を理解し、助言を受けながら患者・家族に基礎看護技術が提供できる。
- ③ 関係者から情報収集し、情報共有ができる。
- ④ 患者・家族や周囲の人々の意向を知る。

3) 教育内容

教育内容の区分は、【共通科目】【専門科目】【演習】【実習】の4つの枠組みと選択科目を含む16の科目で構成される（表1）。

本プログラムの教育方法を示す。

eラーニング：指定のeラーニングツール（全日病SQUE看護師特定行為研修）を各自視聴
講義：京都府立医科大学にて実務家教員・実務家による対面講義を受講

演習：京都府立医科大学にて実務家教員・実務家による演習に参加

施設見学実習：ICU、PICU、救命救急センター等のうち2カ所を選択し見学。（Bコースは必修・Aコースは選択）

施設実習：京都府内の三次救急医療施設にて計2週間実施。（Aコースのみ）

（OJT） ※実習期間の分割（1週単位で調整）、実習施設については受講決定後、実習施設と協議し決定する。

表1 教育課程の概要

		※表の中の数字は時間数を示す					
科目		受講形式		実践コース (Aコース)		学習コース (Bコース)	
		eラー ニング	対面	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護組織論		2	2		2	
	医療安全	3			3		3
	医療倫理	3			3		3
	臨床推論	7		7		7	
	フィジカルアセスメント	6			6		6
	臨床病態概論	7		7		7	
専門科目	クリティカルケア	5	5	10		10	
	救急看護	3	5	8		8	
	災害看護		3	3		3	
	感染管理		3	3		3	
	小児看護	3	2		5		5
	老年看護	3	2		5		5
演習	クリティカルケア演習		5		5	5	
	救急看護演習 (ICLS)		7		7		7
実習	施設見学実習		16		16	16	
	施設実習 (OJT)		80	80			
	合 計	40	130	120	50	61	29

4) 修了の要件

履修にあたっては、所定の出席時間数の達成およびレポートの提出を修了要件とする。

eラーニング：講義動画を視聴後、講義確認テストで5点取得

講 義：時間数の4/5以上の出席（受講）

演 習：時間数の4/5以上の出

席

実 習：時間数の4/5以上の出席、実習レポートの提出

2. 会議等開催日程

運営会議		形式：Zoom	参加者：キャリア開発センター
日時：	4月28日（火）第1回運営会議	11月予定	第6回運営会議
	5月27日（水）第2回運営会議	12月予定	第7回運営会議
	6月24日（水）第3回運営会議	1月予定	第8回運営会議
	7月27日（月）第4回運営会議	3月予定	第9回運営会議
	9月29日（火）第5回運営会議		
運営委員会		参加者：センター運営会議構成メンバー 実施体制メンバー	
第1回：10月16日（金）		第2回：2026年 3月開催予定	
評価委員会		参加者：評価委員会構成メンバーおよび実施体制メンバー	
第1回：10月16日（金）		第2回：2026年 3月開催予定	
R8年度実習指導者ミーティング（年度末に前後期あわせて行う予定）			
日時：未定	形式：オンライン（予定）		
参加者：京都府内三次救急医療施設看護部長、教育担当副部長、看護師長（予定）			
R8年度実習担当者連絡会議			
日時：9月15日	会場：京都府立医科大学看護学舎大講義室		参加者：実施体制メンバー

3. 教育プログラム

1) 2026年度期受講者内訳

コース名	受講者数	修了者数
実践コース（Aコース）	4名	4名
学習コース（Bコース）	4名	3名

2) 年間予定（令和8年度開講期間 2026年4月1日～2027年3月31日）

4月 5月	2026年度前期開講式・e-learning・講義・演習開始（両コース）
6月	ICLSコース実施（両コース希望者） 2026年度後期受講生募集開始
7月 8月	ドクターヘリ基地病院見学（両コース希望者）：済生会滋賀県病院 施設実習（Aコース）：京都第二赤十字病院（初療室・ICU）・宇治徳洲会病院（救急外来・ICU） 施設見学実習（Bコース）：本学附属病院（ICU・PICU）・市立福知山市民病院（救急外来・救命救急病棟）・京都医療センター（救急外来・ICU） 2026年度後期受講者決定
9月	2026年度前期閉講式・成果発表会・公開講座実施・R8年度担当者連絡会議
10月	2026年度後期開講式・e-learning・講義・演習開始（両コース）
11月	2027年度生募集開始（仮）
12月	ドクターヘリ基地病院見学：済生会滋賀県病院（両コース希望者） ICLSコース実施（両コース希望者）
1月 2月	施設実習（Aコース）施設見学実習（Bコース）開始予定 2027年度生受講者決定（仮）
3月	2026年度後期閉講式・成果発表会 三次救急医療施設実習指導者ミーティング・担当者連絡会議予定（ZOOM）

3) 成果報告

(1) 教育プログラム内容

看護組織論 (必修)	教育目標	組織とはなにか、看護マネジメントに必要な諸理論を学び、組織の一員としての自己の役割を認識できる。さらに、リーダーシップの基礎を修得し、自己理解を深め、組織が提供する看護ケアの質の向上に寄与するための能力を育成する。		
	指導方法	実務家教員による講義演習形式にて指導する		
	授業内容	1	組織と看護マネジメント ・組織論 ・看護マネジメント概論	対面
		2	リーダーシップ論 ・リーダーシップ諸理論 ・リーダーシップを磨くための自己理解と経験学習	

臨床推論 (必修)	教育目標	患者が訴える症候から疾患群を想起し、何が最も疑わしいかについて臨床推論を行う。疾病を病因や病態からとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類し、主要な症候から疾患の診断ができるようになるために、知識を統合し、関連する病態生理を理解し、得られる情報を用いて論理的に推論する能力を身につける。日常頻繁に使用されている臨床検査項目について、臨床的意義並びに検査値の基本的な考え方など、一連の診断プロセスと病態との関係を総合的に学習する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習の履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	臨床推論「意識障害」	オンデマンド
		2	臨床推論「胸痛」	
		3	臨床推論「呼吸困難」	
		4	臨床推論「腹痛」	
		5	各種臨床検査の理論と演習「EKG I」	
		6	各種臨床検査の理論と演習「EKG II」	
		7	各種臨床検査の理論と演習「血液検査」	

臨床病態概論 (必修)	教育目標	循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対しての、病態生理、臨床像、治療について基本的知識を学び、臨床診断プロセスに必要な思考過程を身につける。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	循環器系の疾病と病態 I	オンデマンド
		2	循環器系の疾病と病態 II	
		3	呼吸器系の疾病と病態 I	
		4	呼吸器系の疾病と病態 II	
		5	脳血管障害の疾病と病態	
		6	急性心筋梗塞の疾病と病態	
		7	敗血症の疾病と病態	

クリティカルケア（必修）	教育目標	クリティカルケアの概念を理解し、重症患者への看護実践を行うための知識を得る。重症かつ急性期にある患者の病状把握を行い、早期回復支援について立案、実施できるための知識を得る。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。実務家教員および、実務者である医師、専門看護師、認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	発熱のフィジカルアセスメント	オンデマンド
		2	呼吸障害のフィジカルアセスメントⅠ	
		3	呼吸障害のフィジカルアセスメントⅡ	
		4	ショック状態のフィジカルアセスメント	
		5	意識障害のフィジカルアセスメント	
		6	重症患者管理の実際	対面講義
		7	クリティカルケア看護概論	
		8	早期回復支援（重症患者の栄養管理）	
		9	人工呼吸器管理	
		10	早期回復支援（リハビリテーションの役割）	

救急看護（必修）	教育目標	さまざまな状況において突然に生じた傷害または急激な疾病の発症や急性増悪等によって、医療を必要とする人々に対する迅速かつ適切な看護実践である救急看護についての役割について学び、重要性、必要性を再考できる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。救急看護を専門としている教員および、実務者である認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	救急医療Ⅰ 状態に応じた身体診察 救急医療（１）	オンデマンド
		2	救急医療Ⅱ 状態に応じた身体診察 救急医療（２）	
		3	救急医療Ⅲ 状態に応じた身体診察 救急医療（３）	
		4	救急看護の実際 「急変の予兆」の捉え方とその対応	
		5	救急看護概論	対面講義
		6	救急・災害医療概論	
		7	救急領域における患者と家族の心理的特徴と精神的支援について	
		8	病院前診療・ドクターヘリの運用と役割	

災害看護（必修）	教育目標	国内外で災害が発生した際に医療や看護の知識・技術を提供し、ほかの専門分野と協力・連携しながら行う災害看護について学び、果たす役割について考えることができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習、看護学科教員および、実務者である DMAT メンバーによる講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	災害看護概論	対面講義
		2	災害時における看護師の役割	対面講義・演習
		3	救急・災害医療概論	対面講義

感染管理（必修）	教育目標	クリティカルケアにおける感染予防および感染症発生時の拡大防止、また、病原微生物に曝露した際に発症を予防するための対策について、その概要を学び基本的知識を修得する。また、感染症に関わる倫理的課題、患者・家族、医療従事者のメンタルヘルスについて学習し、その課題について考察する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。看護学科教員および、実務者である感染管理認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	基礎編 理論と実践をつなげる：感染対策の基本とは？	対面講義
		2	応用編 ICU入室患者のデバイス管理と周術期感染対策	
	授業内容	3	実践編 ケーススタディで学ぶ感染対策	対面講義・演習

(A コース必修) 施設実習 (OJT)	教育目標	高度急性期病院における集中治療において、クリティカルな状態にある患者の病態把握、早期回復支援の実践について学ぶ。また、大手術後や侵襲の大きな治療を受ける患者の生体反応とそれに応じた対応について学ぶ。		
	指導方法	京都府下三次救急医療施設において、ICU および救急室での実習を行う。次の①～⑥が経験できるよう調整をはかり、個々の目標を設定し達成できるように指導する。 ①大手術後の看護②侵襲的治療を受ける患者の看護③救急入院時の対応（重症度判定） ④外傷患者への看護⑤人工呼吸器装着中の看護⑥多職種カンファレンス		
	授業内容	実習期間	ICUでのOJT（1週間） 救急室でのOJT（1週間）	三次救急医療施設より選択

(B コース必修) クリティカルケア演習	教育目標	クリティカルケアの必要がある生命の危機的状態（クリティカル期）にある重症患者に対してER、ICU、外科系病棟で行われるケアについてシミュレーターを使用して学ぶ。ニーズに合った医療を提供できる力（実践力）を模擬的な状況の中で、学習者としての個人やチームで医療を経験し、最善の医療を実践するにはどのような専門的な知識・技術・態度を備えていなければならないのかを考察する。		
	指導方法	状況設定された高機能シミュレーターを用いてクリティカルケアを実施し、適切な判断とそれに基づく行動ができたかメンバー内でフィードバックを行う。その内容を評価し指導する。		
	授業内容	1	人工呼吸管理	対面演習
		2	状況設定（呼吸）：フィジカルアセスメント&実践	
		3	状況設定（循環）：フィジカルアセスメント&実践	
		4	状況設定（脳神経）：フィジカルアセスメント&実践	
		5	看護師が行う気道管理	

(B コース必修) 施設見学実習	教育目標	急変・救急搬送・手術後などのさまざまな理由から生命の危機に直面している状態の患者においては状態のモニタリングや綿密なケアなどのクリティカルケアが非常に重要となる。ドクターヘリでの病院前診療の実践、手術中の管理の実践、集中治療室での実践を見学することで生命を維持するためのケアの必要性や重要性を再考することができる。		
	指導方法	以下施設より2か所を選択し、見学実習を行う。見学実習における個々の目標を設定し、その目標が達成できる様に指導する。		
	授業内容	1	ICUの見学	三次救急医療施設より選択
		2	PICUの見学	
		3	救命救急センターの見学	

医療安全（選択）	教育目標	医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまなリスクが発生している。クリティカルケアの質保証することの大切さを認識し、医療安全の症例を通して理解する。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	組織と医療安全	オンデマンド
		2	個人と医療安全	
		3	患者・家族と医療安全	

医療倫理（選択）	教育目標	医療内容の複雑化、高度化、社会構造の変化、国際化などにより、医療現場ではさまざまな倫理的問題に直面する。クリティカルケアの質保証することの大切さをふまえ、医療倫理について考える。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習の履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	医療倫理・生命倫理の原則	オンデマンド
		2	患者の権利・医療安全	
		3	患者への説明と意思決定支援の理論	

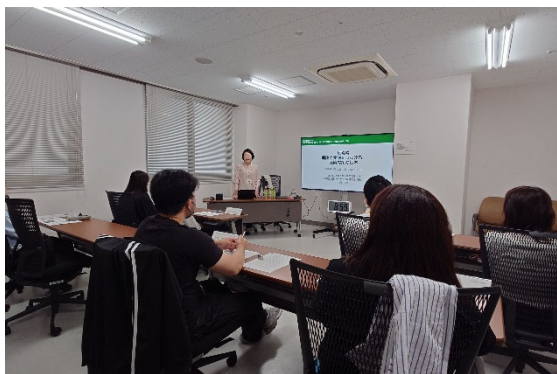
フィジカルアセスメント（選択）	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。多様な臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。履修状況を講義確認テストの結果をもとに確認を行い指導する。		
	授業内容	1	全身状態とバイタルサイン	オンデマンド
		2	胸部のフィジカルアセスメント	
		3	神経系のフィジカルアセスメント	
		4	心血管（胸部）のフィジカルアセスメント	
		5	呼吸（胸部）のフィジカルアセスメント	
		6	腹部のフィジカルアセスメント	

小児看護（選択）	教育目標	日常的にみられる病態を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態生理学的状態をエビデンスに基づき判断できる知識・技術を身につける。小児領域の臨床場面における重要な病態の変化や症状をいち早くアセスメントできる基本的な知識を身につける。症例に関する適切な情報収集・分析を行い、病歴や身体所見などの情報を統合してアセスメントができ、今後必要となる処置や検査の予測ができる。		
	指導方法	e ラーニングによる自己学習。看護学科の教員および、実務家である専門看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	小児のフィジカルアセスメントⅠ	オンデマンド
		2	小児のフィジカルアセスメントⅡ	
		3	小児のフィジカルアセスメントⅢ	
		4	小児看護概論	対面講義
		5	小児重症患者看護	

老年看護 (選択)	教育目標	生命の危機的状況にある高齢者の看護を学ぶ。eラーニングでは、身体に加齢変化とフィジカルアセスメントを学習し、健康逸脱からの回復を促す看護につなげる。講義では、概論にて地域包括ケアシステムにおける急性期病院の役割を学ぶ他、倫理的課題（高齢者虐待と身体拘束）について意見交換を行う。各論では、認知症患者とのコミュニケーション、せん妄発症時の看護について、認知症ケア認定看護師等から実践的な知識・技術を学ぶ。		
	指導方法	eラーニングによる自己学習。看護学科の教員および、実務家である認知症看護認定看護師による講義演習形式にて指導する。		
	授業内容	1	身体診察の年齢による変化 高齢者（1）	オンデマンド
		2	身体診察の年齢による変化 高齢者（2）	
		3	身体診察の年齢による変化 高齢者（3）	
		4	認知症患者の看護	対面講義
		5	せん妄の予防と発症時の看護	

救急看護演習 ICLS (選択)	教育目標	医療従事者が突然の心停止という緊急事態に直面した際、最初の 10 分間における迅速かつ的確な対応と、チームによる協働的な蘇生行動を安全かつ効果的に実践できるようになることを目的としたトレーニングコースである。受講者は、実際の臨床編場を想定したシミュレーションを通じて、個人の技術のみならず、チーム医療の要点を体得することを目指す。		
	指導方法	状況設定された高機能シミュレーターを用いて救命蘇生処置を実施し、適切な判断とそれに基づく行動ができたかどうかをメンバー内でフィードバックを行う。その内容を評価し指導する。		
	授業内容	ICLS		対面演習

【講義の様子】



感染管理 基礎編



災害看護概論



小児看護概論



災害医療概論

【施設見学実習】ドクターヘリ基地病院見学の様子



フライトナースからの講義



ドクターヘリ基地見学

【救急看護演習】ICLS の様子（日本救急医学会認定コース）



【演習の様子】



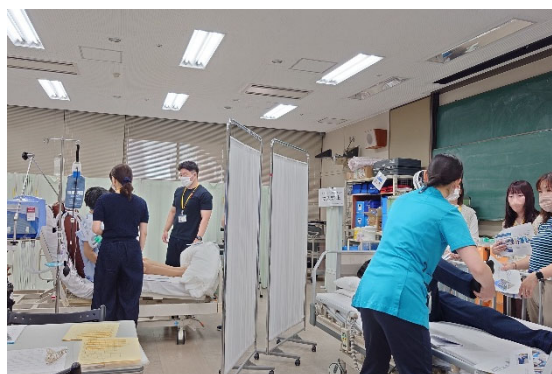
人工呼吸器管理



フィジカルアセスメント&実践 脳神経



災害時における看護師の役割



リハビリテーションの役割

(2) 形成的評価

2026 年度 前期公開講座

日時：2026 年 9 月 15 日（火）17:00~18:30（ハイブリット開催）

講師：山畑 佳篤先生

（京都府立医科大学 救急医療学教室 大学院医学研究科

救急・災害医療システム学 講師）

テーマ：「救急の“いま”を体感する臨床判断トレーニング

ーバーチャル症例で学ぶ初期対応と優先度判断ー

参加者数：51 名（アンケート回収率：54%）

参加者概要（図 1～4）

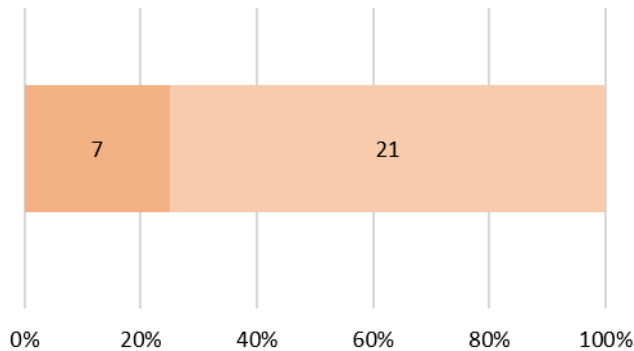


図 1 参加者の所属内訳別

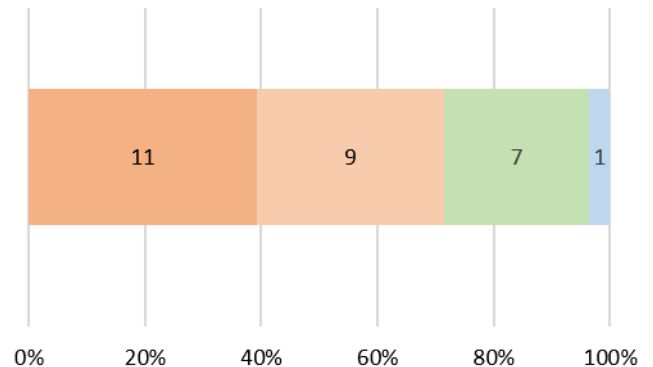


図 2 受講動機の内訳

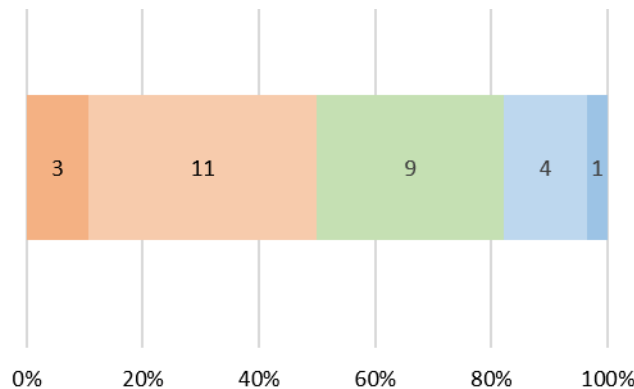


図 3 参加者の年齢構成

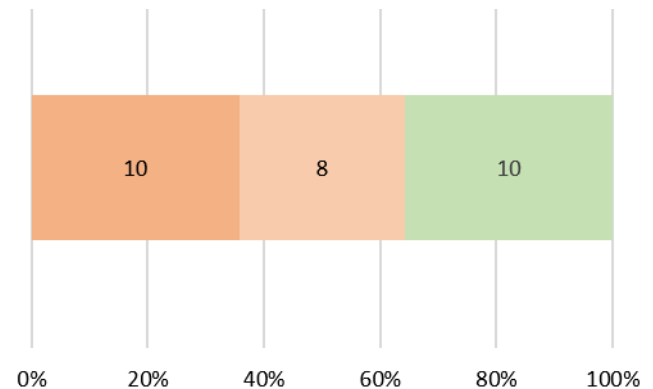
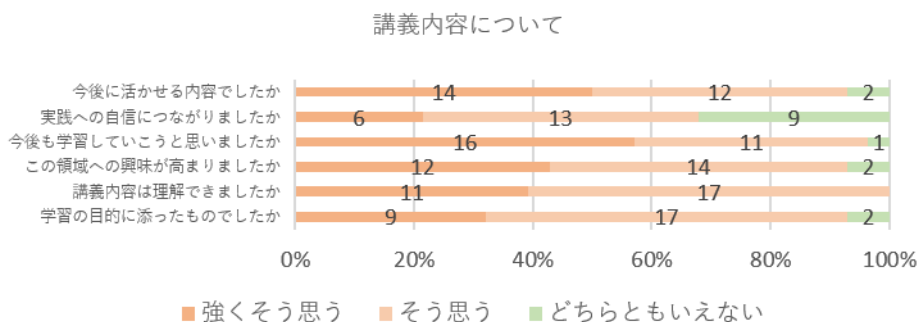
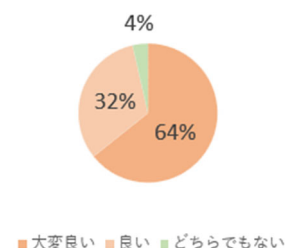


図 4 参加者の臨床経験年数



講義の総合評価



科目名【看護組織論】対面講義

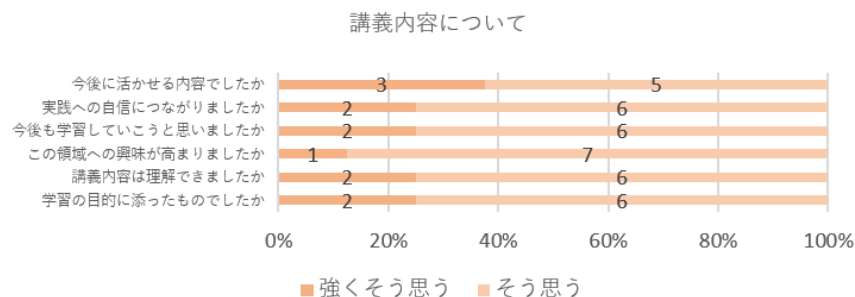
日 時：2026 年 4 月 3 日（金）10:30~11:15

講 師：宮田 千春先生

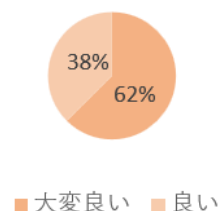
（京都府立医科大学医学部看護学科 教授）

テーマ：「組織と看護マネジメント」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



総合評価



科目名【看護組織論】対面講義

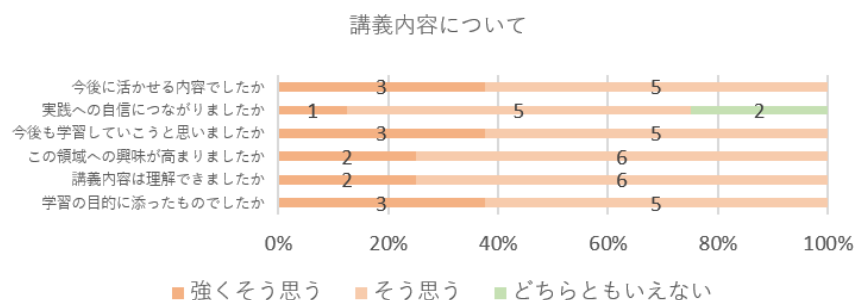
日 時：2026 年 4 月 3 日（金）11:15~12:00

講 師：宮田 千春先生

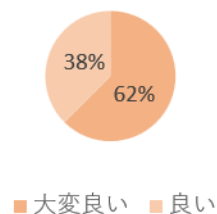
（京都府立医科大学医学部看護学科 教授）

テーマ：「リーダーシップ論」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



総合評価



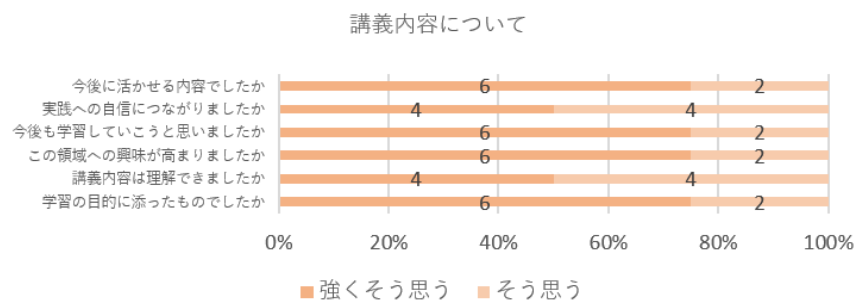
科目名【クリティカルケア】対面講義

日 時：2026 年 4 月 3 日（金）13:00~14:30

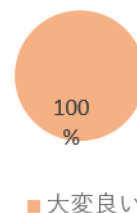
講 師：小尾口 邦彦先生（京都府立医科大学附属病院 集中治療部部長）

テーマ：「重症患者管理の実際」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



講義の総合評価



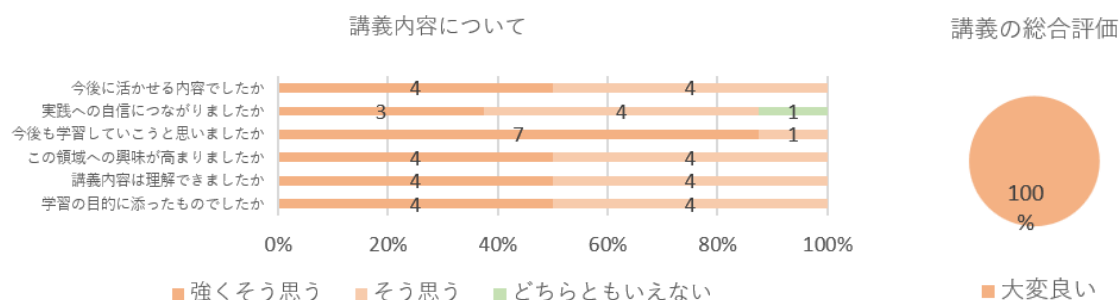
科目名【クリティカルケア】対面講義

日 時：2026 年 4 月 3 日（金）14:45~15:45

講 師：野口 綾子先生（東京科学大学病院 集中治療部 急性・重症患者看護専門看護師
東京科学大学大学院 保健衛生学研究科 看護先進科学専攻
災害・クリティカルケア看護学分野 講師）

テーマ：「クリティカルケア看護概論」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



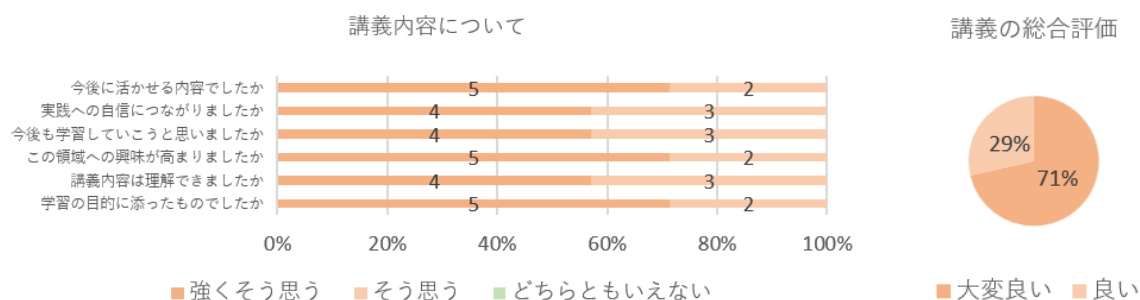
科目名【クリティカルケア】対面講義

日 時：2026 年 5 月 12 日（火）14:45~15:45

講 師：濱口 真英先生（京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学講師）

テーマ：「早期回復支援（重症患者の栄養管理）」

受講者：7 名（アンケート回収率 100%）



科目名【クリティカルケア】対面講義

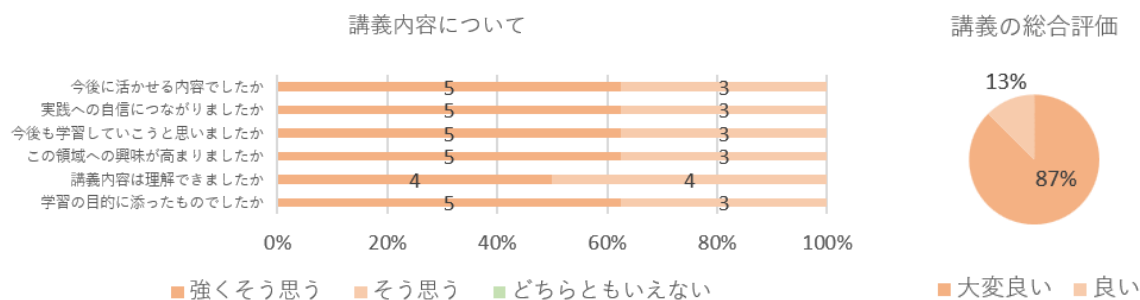
日 時：2026 年 5 月 26 日（火）9:00~10:00

講 師：畑中 祐也先生

（京都府立医科大学附属病院臨床工学部兼医療技術部臨床工学科副部長 臨床工学技士長）

テーマ：「人工呼吸器管理」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



科目名【クリティカルケア】対面講義・演習

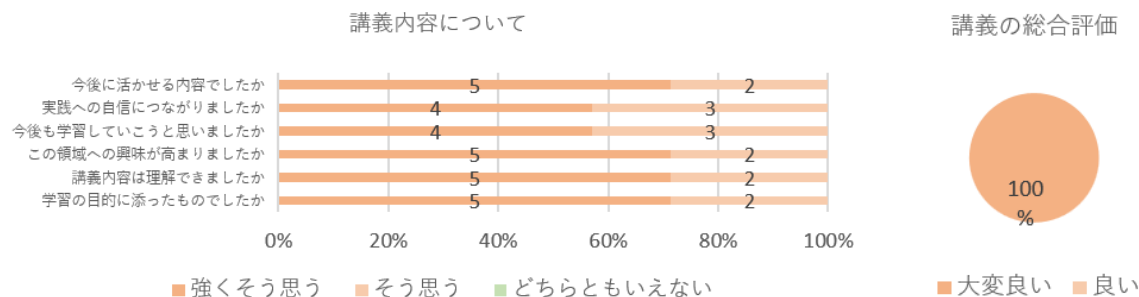
日 時：2026年6月10日（水）9:00~10:00

講 師：山端 志保先生

（京都府立医科大学附属病院理学療法士 リハビリテーション技術科 循環器疾患係長）

テーマ：「早期回復支援（リハビリテーションの役割）」

受講者： 7名（アンケート回収率 100%）



科目名【救急看護】対面講義

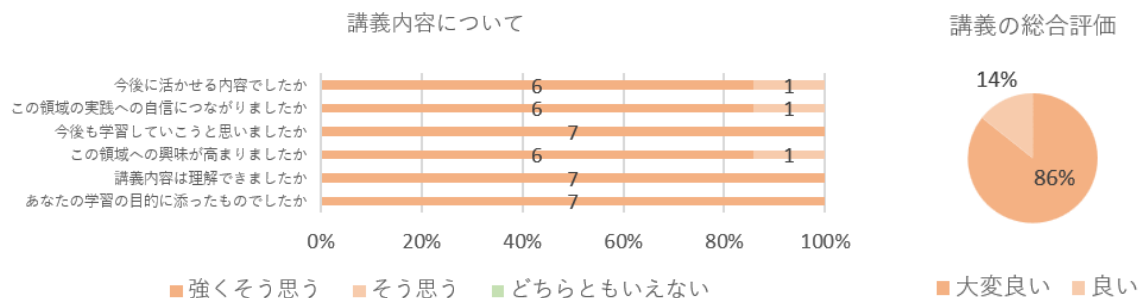
日 時：2026年5月12日（火）13:30~14:30

講 師：金光 史恵先生

（京都第一赤十字病院 クリティカルケア認定看護師 特定行為研修修了者）

テーマ：「救急看護の実際『急変の予兆』の捉え方とその対応」

受講者： 7名（アンケート回収率 100%）



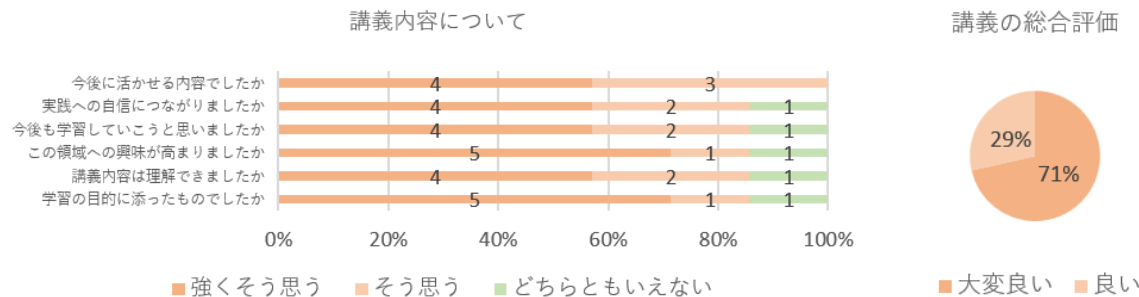
科目名【救急看護】対面講義

日 時：2026年5月12日（火）16:00~17:00

講 師：江口 秀子先生（鈴鹿医療科学大学 看護学部看護学科 学科長 教授）

テーマ：「救急看護概論」

受講者： 7名（アンケート回収率 100%）



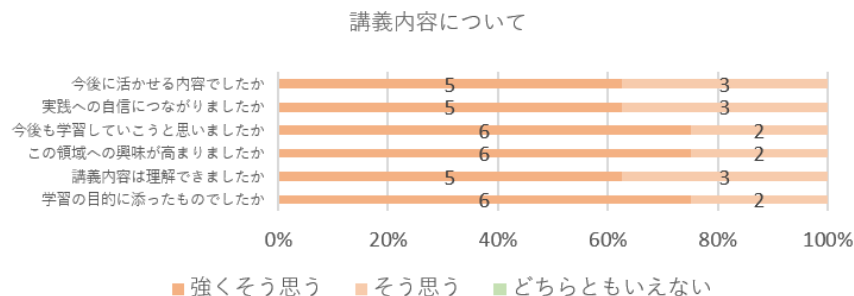
科目名【救急看護】対面講義

日 時：2026 年 5 月 26 日（火）16:00~17:30

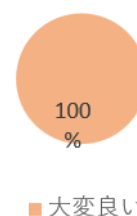
講 師：山畑 佳篤先生（京都府立医科大学救急医療学教室 講師）

テーマ：「救急医療概論」

受講者： 8 名（アンケート回収率 100%）



講義の総合評価



科目名【救急看護】対面講義

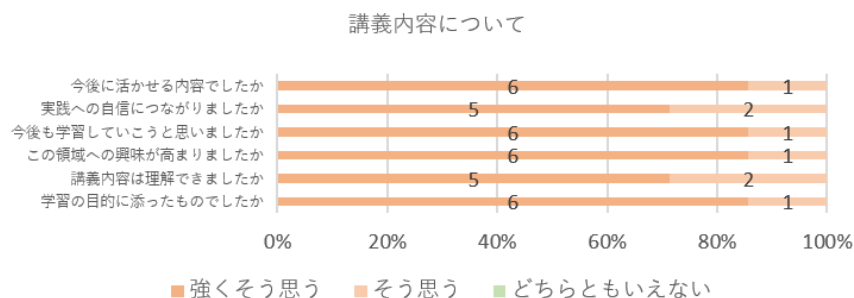
日 時：2026 年 6 月 10 日（水）16:00~17:00

講 師：柱谷 久美子先生

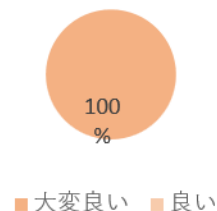
（京都府立医科大学医学部看護学科 講師/精神看護専門看護師）

テーマ：「救急領域における患者と家族の心理的特徴と精神的支援について」

受講者： 7 名（アンケート回収率 100%）



講義の総合評価



科目名【救急看護】対面講義

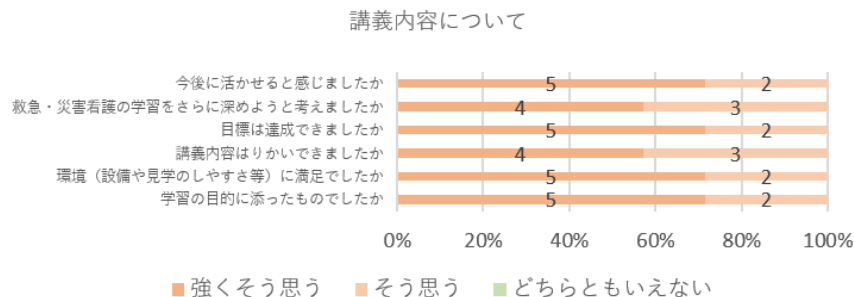
日 時：2026 年 7 月 1 日（水）13:30~16:30

講 師：林 薫先生

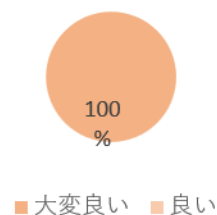
（済生会滋賀県病院 看護部 救急外来係長/救急看護認定看護師）

テーマ：「病院前診療・ドクターヘリの運用と役割」

受講者： 7 名（アンケート回収率 100%）



講義の総合評価



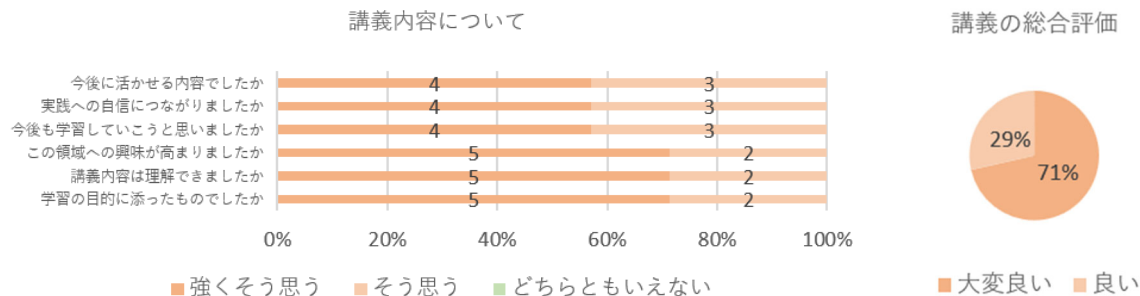
科目名【災害看護】対面講義

日 時：2026 年 6 月 10 日（水）11:30~12:30

講 師：佐藤 隆平先生（神戸市看護大学 療養生活看護学領域 急性期看護学分野 准教授）

テーマ：「災害看護概論」

受講者： 7 名（アンケート回収率 100%）



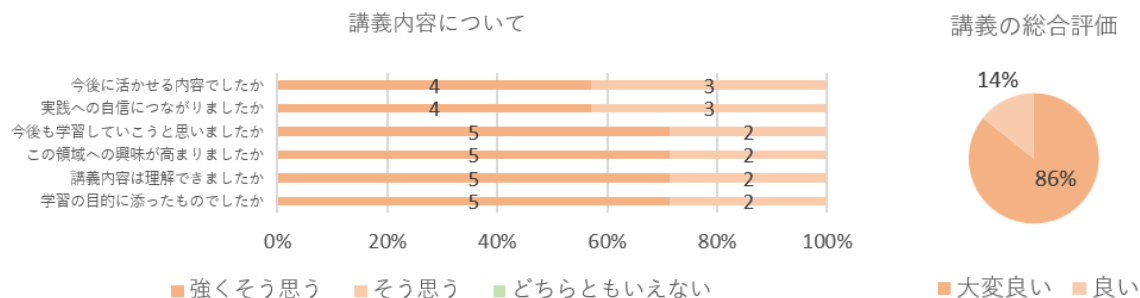
科目名【災害看護】対面講義・演習

日 時：2026 年 6 月 10 日（水）13:30~14:30

講 師：鴨島 尚美先生（京都府災害医療コーディネーター DMAT インスストラクター）

テーマ：「災害時における看護師の役割」

受講者： 7 名（アンケート回収率 100%）



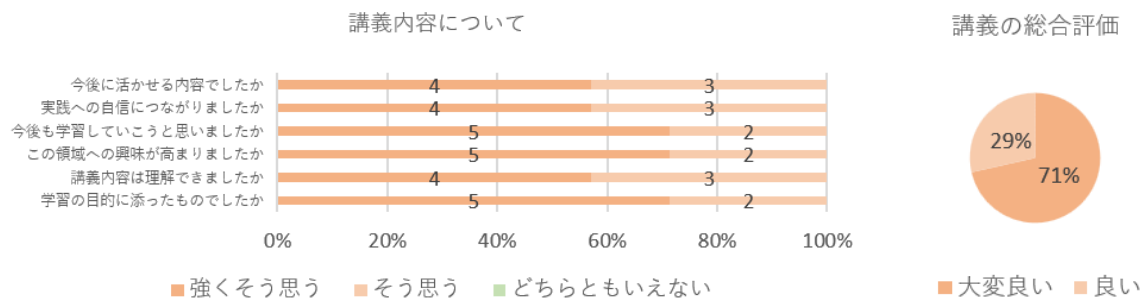
科目名【災害看護】対面講義

日 時：2026 年 6 月 10 日（水）14:45~15:45

講 師：山畑 佳篤先生（京都府立医科大学救急医療学教室 講師）

テーマ：「災害医療概論」

受講者： 7 名（アンケート回収率 100%）



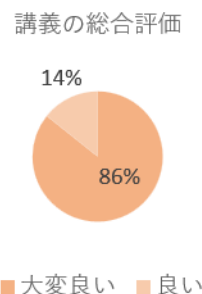
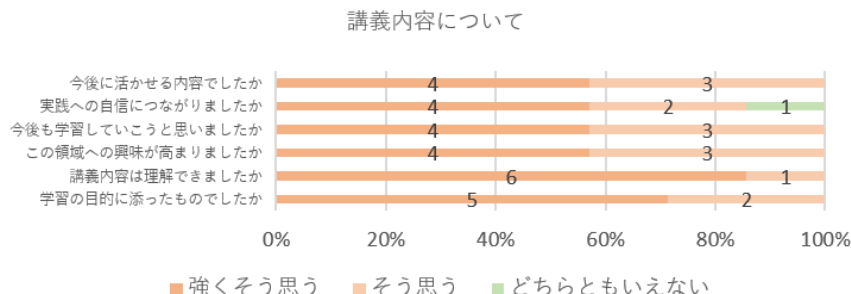
科目名【感染管理】対面講義

日 時：2026年5月12日（火）9:00~10:00

講 師：内海 桃絵先生（京都府立医科大学医学部看護学科 教授）

テーマ：基礎編「理論と実践をつなげる～感染対策の基本とは？～」

受講者： 7名（アンケート回収率 100%）



科目名【感染管理】対面講義

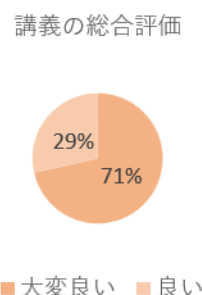
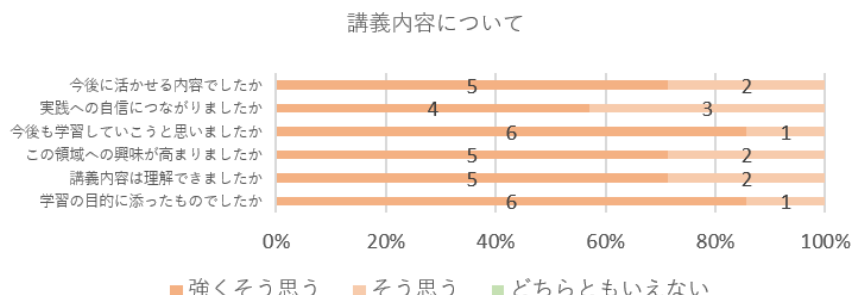
日 時：2026年5月12日（火）10:15~11:15

講 師：内海 桃絵先生（京都府立医科大学医学部看護学科 教授）

：菊地 圭介先生（京都府立医科大学附属病院 感染管理認定看護師）

テーマ：応用編「ICU入室患者のデバイス管理と周術期感染」

受講者： 7名（アンケート回収率 100%）



科目名【感染管理】対面講義・演習

日 時：2026年5月12日（火）11:30~12:30

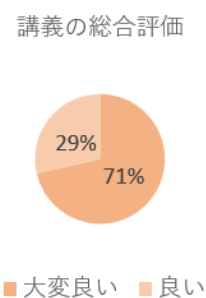
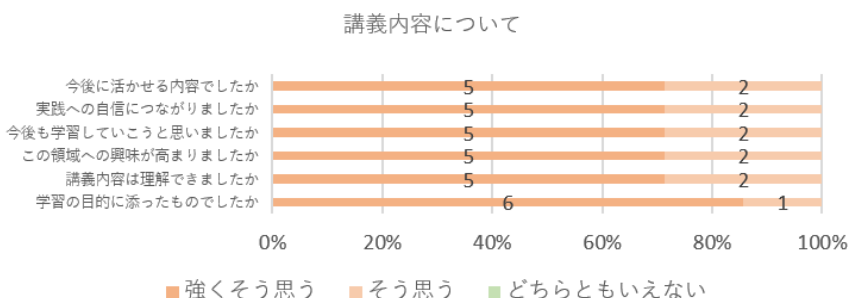
講 師：内海 桃絵先生（京都府立医科大学医学部看護学科 教授）

：菊地 圭介先生（京都府立医科大学附属病院 感染管理認定看護師）

：中西 文美先生（京都府立医科大学附属病院 感染管理認定看護師）

テーマ：実践編「ケーススタディで学ぶ感染対策」

受講者： 7名（アンケート回収率 100%）



科目名【クリティカルケア演習】対面演習

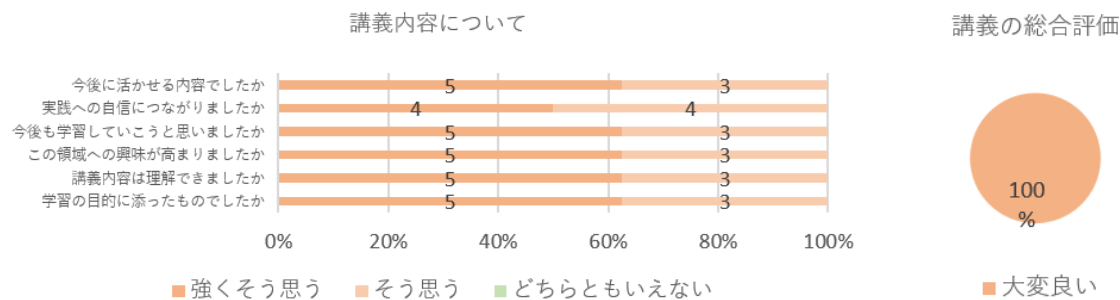
日 時：2026 年 5 月 26 日（火）10:15~11:15

講 師：畑中 祐也先生

（京都府立医科大学附属病院 臨床工学部兼医療技術部臨床工学科副部長 臨床工学技士長）

テーマ：「人工呼吸器管理」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



科目名【クリティカルケア演習】対面演習

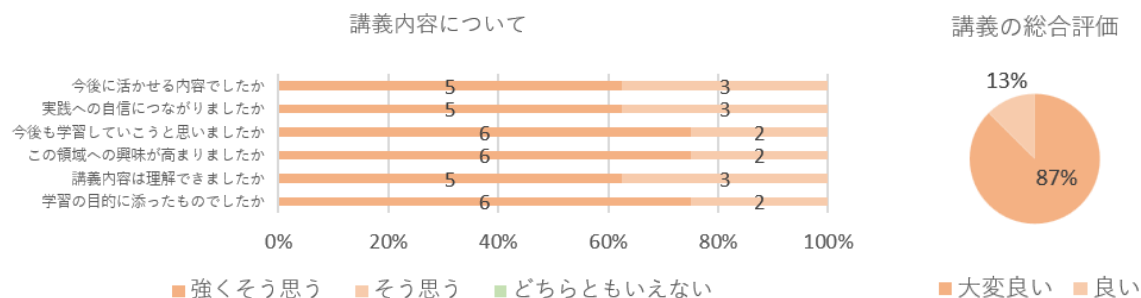
日 時：2026 年 5 月 26 日（火）11:30~12:30

講 師：竹中 千恵先生

（京都府立医科大学附属病院 クリティカルケア認定看護師 特定行為研修修了者）

テーマ：「フィジカルアセスメント&実践（呼吸）」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



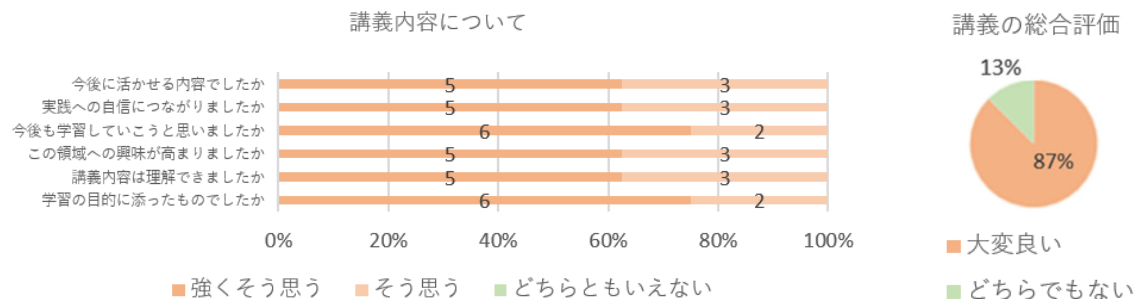
科目名【クリティカルケア演習】対面演習

日 時：2026 年 5 月 26 日（火）13:30~14:30

講 師：藤原 博美先生（京都第二赤十字病院 慢性心不全看護認定看護師）

テーマ：「フィジカルアセスメント&実践（循環）」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



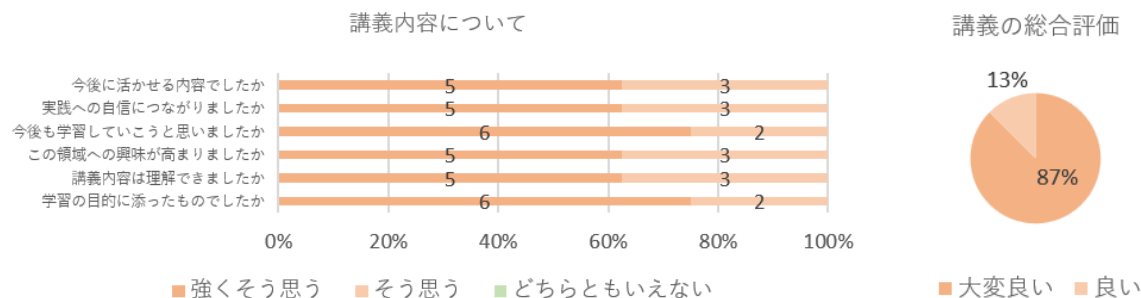
科目名【クリティカルケア演習】対面演習

日 時：2026 年 5 月 26 日（火）14:45~15:45

講 師：梅西 宏美先生（京都第二赤十字病院 救急看護認定看護師）

テーマ：「フィジカルアセスメント & 実践（脳神経）」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



科目名【クリティカルケア演習】対面講義・演習

日 時：2026 年 6 月 10 日（水）10:15~11:15

講 師

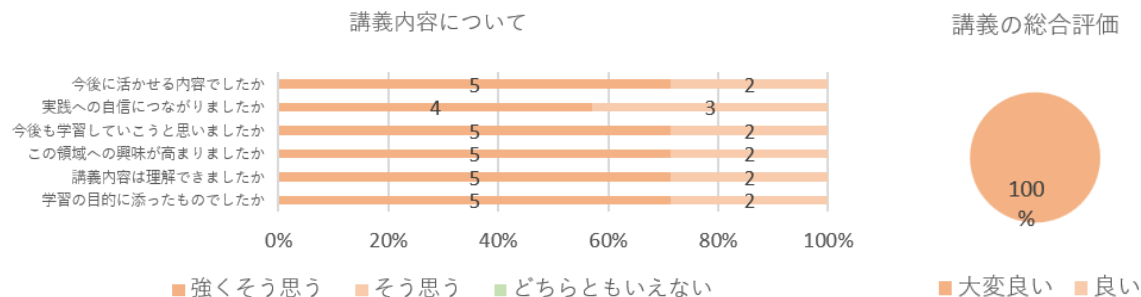
：瀧崎 一美先生（京都府立医科大学附属病院 集中ケア認定看護師）

：長谷川 佳代先生（京都府立医科大学附属病院 手術看護認定看護師）

：山内 薫先生（京都府立医科大学附属病院 手術看護認定看護師 特定行為研修修了者）

テーマ：「看護師が行う気道管理」

受講者：7 名（アンケート回収率 100%）



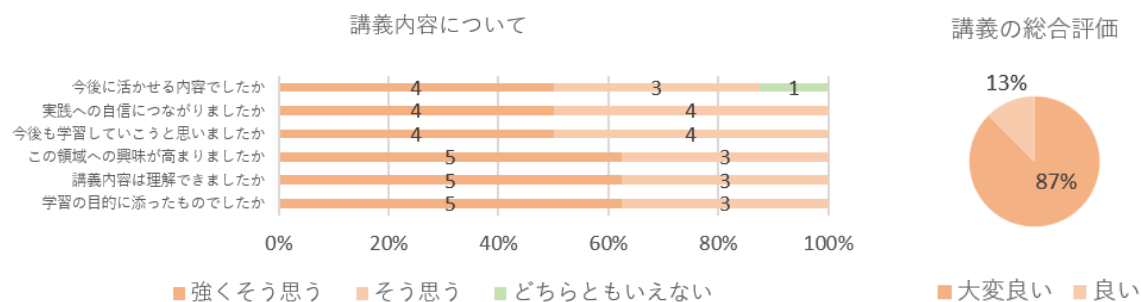
科目名【小児看護】対面講義

日 時：2026 年 6 月 23 日（火）10:15~11:15

講 師：原田 清美先生（京都府立医科大学医学部看護学科 准教授）

テーマ：「小児看護概論」

受講者：8 名（アンケート回収率 100%）



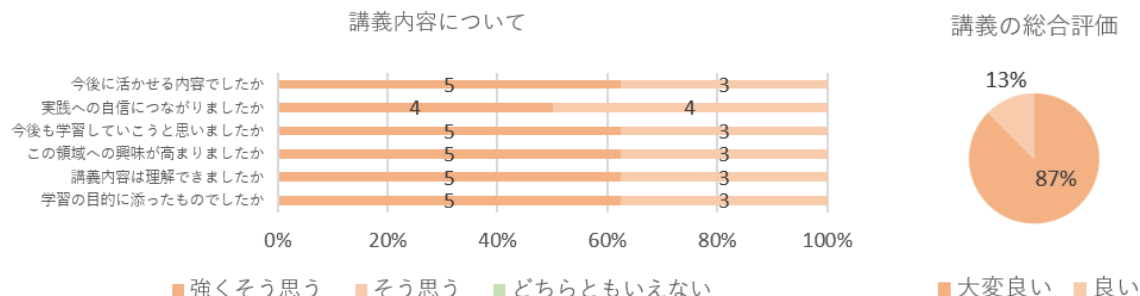
科目名【小児看護】対面講義

日 時：2026年6月23日（火）11:30~12:30

講 師：辻尾 有利子先生（京都府立医科大学附属病院 急性・重症患者看護専門看護師）

テーマ：「小児重症患者看護」

受講者：8名（アンケート回収率 100%）



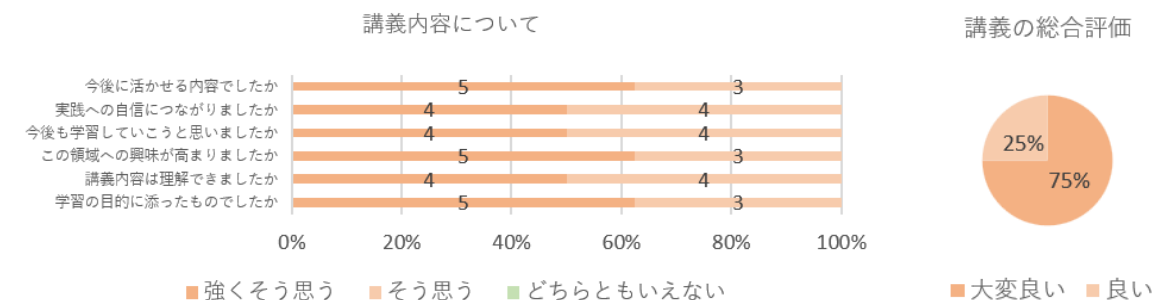
科目名【老年看護】対面講義

日 時：2026年6月23日（火）13:30~14:30

講 師：富田 陽子先生（京都府立医科大学附属病院 認知症看護認定看護師）

テーマ：「認知症患者の看護」

受講者：8名（アンケート回収率 100%）



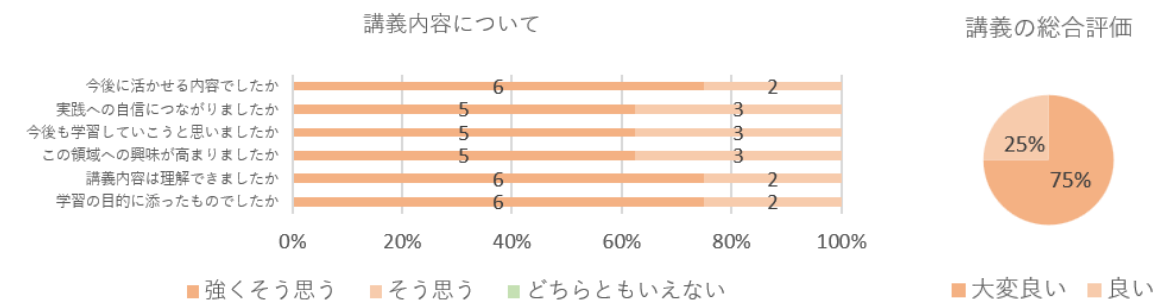
科目名【老年看護】対面講義

日 時：2026年6月23日（火）14:45~15:45

講 師：安里 智洋先生（京都府立医科大学附属病院 認知症看護認定看護師）

テーマ：「せん妄の予防と発症時の看護」

受講者：8名（アンケート回収率 100%）



科目名【救急看護演習（ICLS）】対面演習

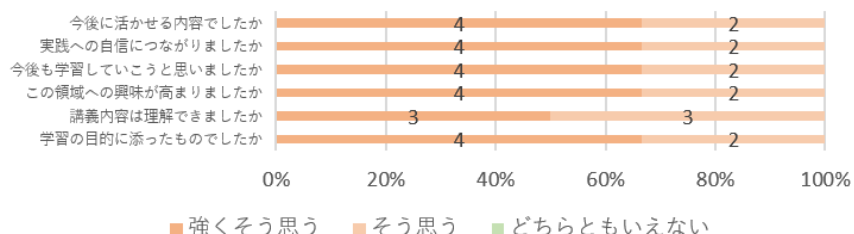
日 時：2026年6月9日（火）10:00~17:30

講 師：山畑 佳篤先生（京都府立医科大学救急医療学教室 講師）

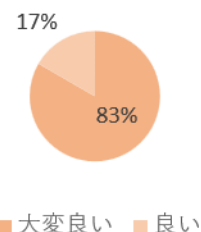
テーマ：「ICLS」

受講者：6名（アンケート回収率 100%）

講義内容について



講義の総合評価



KPU 京都府公立大学法人
京都府立医科大学附属病院
Kyoto Prefectural University of Medicine

令和8年度 第1回 ジェネラリストナース養成ICLSコース
日本救急医学会認定 二次救命処置(ICLS)コース
修了証
様

コースディレクター
山畑 佳篤

本コースは日本救急医学会
認定 ICLS コースであることを証する
コース認定番号 **2626052**
2026年 6 月 9 日
一般社団法人 日本救急医学会
代表理事 溝端 康光

開催日：2026年 6月 9日



京都府立医科大学
看護実践キャリア開発センター

2026 年度前期 成果発表会

日 時：2026 年 9 月 15 日（金）14:30～16:30

場 所：京都府立医科大学 大講義室（ZOOM でのハイブリット開催）

参加者：8 名（2026 年度前期受講生 7 名・2024 年修了者 1 名）

三次救急医療施設 実習指導者 12 名

（京都大学医学部附属病院 国立病院機構京都医療センター 京都第一赤十字病院
京都第二赤十字病院 宇治徳洲会病院 洛和会音羽病院 市立福知山市民病院
京都府立医科大学附属病院）

本学看護学科教員 3 名

発表者：A コース 4 名

概 要：本会は成果発表会、Project KPUM ネットワーク（P-K net）交流会の二部構成で実施した。

1）成果発表会

A コース受講者 4 名による成果発表を行った。ハイブリッド形式とし、京都府下三次救急医療施設より看護部長、副看護部長、ならびに実習でご指導いただいた看護師の皆様にもご参加いただき、発表内容に対して貴重なご意見を賜った。

【発表内容】

①「他施設実習から見えた自部署の課題と可能性」

社会医療法人健康会 新京都南病院 小坂 りえ

②「実習を通しての救急看護の学び」

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 中村 茅椰

③「トラウマコードの経験から見えた重症患者対応時に求められる救急外来看護師の役割」

市立福知山市民病院 兼元 翔也

④「重症患者の早期離床 多職種連携と看護師の役割」

独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター 村山 葉津季

2）P-K net 交流会

これまでの修了者 1 名と今年後前期受講者が実習で得た学びの整理、自施設での今後の活用方法について意見交換を行った。

最後に、本学医学部看護学科教員より、学びの実践へのつなげ方やネットワーク構築の重要性について助言をいただき、閉会した。



(3) 総括的評価

1. 受講者の受講前後の臨床ラダー評価の比較

評価の方法：集中治療に携わる看護師の臨床ラダー（日本集中治療医学会,2019）を使用し自己評価したものを、本研修参加前と終了時を比較した。臨床ラダーの評価方法として1要素につき1点とカウントし、比較した。

- Aコース4名、Bコース3名の受講者は、受講前のラダーレベルがI未満からVまでと幅広く、自己評価には個人差がみられた。
- Aコースでは、1名がラダーレベルI未満からIIに到達し、1名はレベルIIからIIIに到達したが、ほか2名は変化がなかった。「ニーズをとらえる力」「ケアする力」では評価の向上がみられた一方で、「意思決定を支える力」は低い評価にとどまった。（図1）
- Bコースでは、1名がレベルI未満からIへ、IからIIへ、IIからIIIへそれぞれ到達した。個人の差はあるが、複数の項目で自己評価の向上が認められた。（図2）

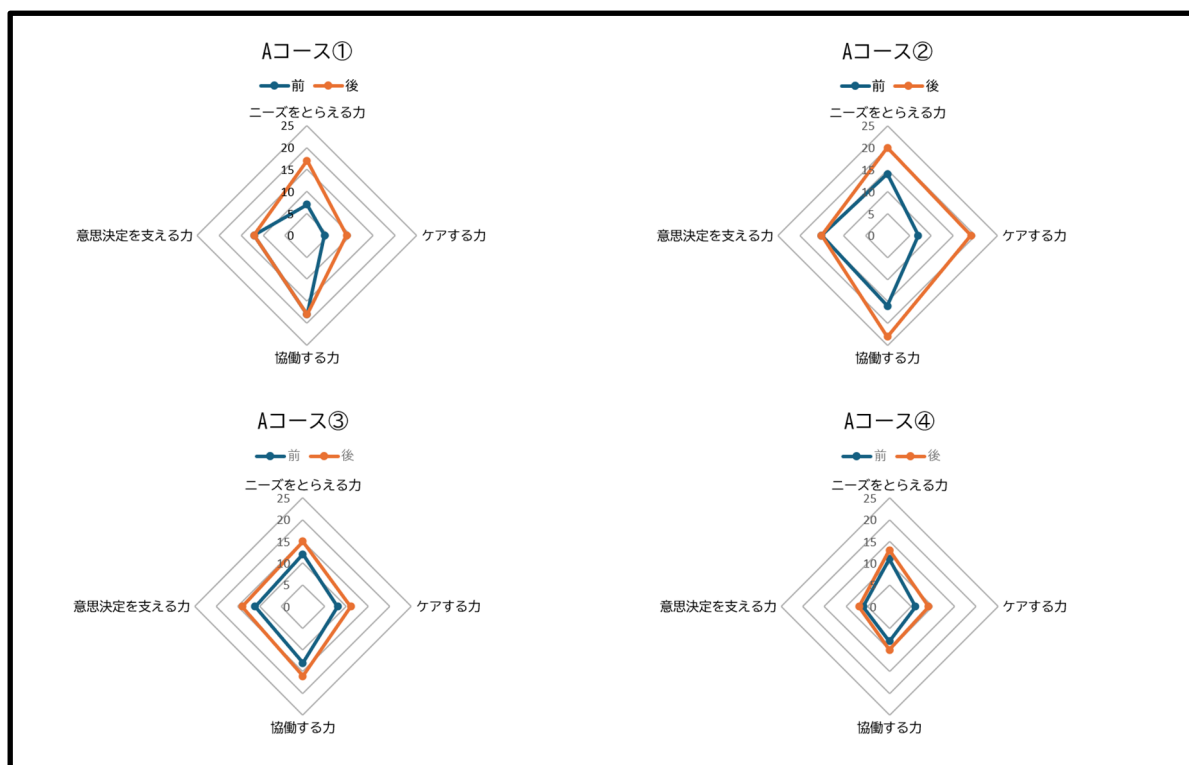


図1 Aコースにおけるグループ間の臨床ラダー変化（研修前後比較）

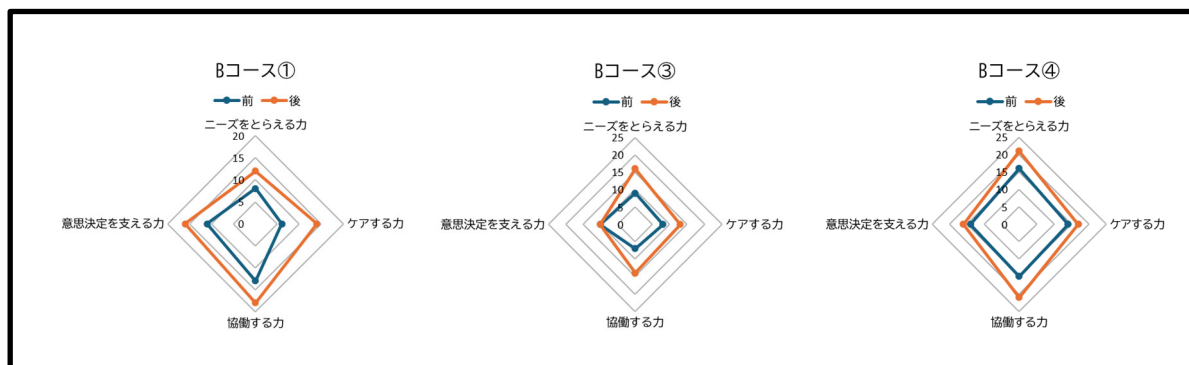


図2 Bコースにおけるグループ間の臨床ラダー変化（研修前後比較）

2. 実習で新たに経験した技術および対象患者の状況

● 新たに経験した看護技術

A コースでは、2 週間の OJT を通じて 4 名とも未経験項目には大きな変化はなかったが、自身がないと回答していた行為が減少した。人工呼吸器管理中や補助循環管理中の看護ケアを経験できた。「集中治療後症候群（PICS）の予防のための支援」や「ECMO など特殊な治療」「ABCDEFGH バンドルを用いた評価」「乳幼児の人工呼吸管理」など、幅広い経験ができた。B コースでは未経験項目は減少傾向だが、個人差が大きい。自信をもって実施できるという項目は変化が乏しかった。人工呼吸器管理中の看護ケアを経験できた。「血液ガス分析から循環不全の重症度を評価する」「FAST による評価」「呼吸不全の重症度の評価」「循環不全の評価（qSOFA、CRT 等）」など、評価ツールを活用しながら観察・判断を行う項目を経験できた。

3. まとめ

後期は 10 名の応募があり、事業の認知度が徐々に高まっている。京都府北部・南部を含む府内各地域から受講生が集まり、高度急性期から中小規模病院、訪問看護まで、さまざまな医療環境の看護職者が共に学ぶ場となっている。交流会には修了生も参加し、施設の枠を越えた意見交換が進んでいるほか、三次救急医療施設の実習指導者からも評価を得ており、次年度の受講者確保にもつながっている。こうした広がりから、本事業は地域医療の質向上に寄与する人材育成の場として、一定の役割を果たしているといえる。

受講後アンケートでは、指導者としての成長意欲や特定行為研修への関心、三次救急医療機関での勤務希望など、キャリアに前向きな記述が多くみられた。多様なロールモデルとの出会いが、専門性の追求や高度専門職へのキャリア形成を後押ししており、実際に特定行為研修へ進む受講生も生まれている。

今後の課題としては、こうした広がりを継続的な仕組みとして定着させ、施設間連携をどのように形づくっていくかが重要である。

本成果報告書は、文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業（社会的な要請に対応できる看護師の養成）」として京都府公立大学法人京都府立医科大学が実施した 2026 年度前期「Project KPUM-重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。

2026 年 10 月発行

「Project KPUM-重症患者に対応できるジェネラリストナース養成プロジェクト」事務局

京都府立医科大学 看護実践キャリア開発センター

〒602-8566 京都府京都市上京区河原町通広小路上る梶井町 465
TEL/FAX : 075 - 212-5422 e-mail : careinfo@koto.kpu-m.ac.jp